

神仏両界の大柴燈護摩供

第22回 星まつりに42万人の参拝

阿含宗

護摩木三千七十万本焚き上げ

阿含宗（桐山靖雄管長）では十一日、京都市山科区北花山大峰の会場で、京都の早春の風物詩として知られる「真正仏舎利奉安阿含の星まつり 神仏両界大柴燈護摩供」を、桐山管長の大導師のもと盛大に厳修した。これには兵庫県南部地震の被災地の信徒がツアーバス五台で元気に参拝したほか、全国の信徒の団参や一般の人々など約四十二万人が参拝に訪れた。

「阿含の星まつり」は本年度で二十二回目を迎えた。毎年、阿含宗信徒のほか多くの一般の人々が参拝して真摯な祈りを捧げる同宗最大の恒例行事である。

今回の星まつりで立てられた祈願は国土因縁解脱（世界平和）と霊障因縁解脱（家運隆昌）、福運招来（諸人繁栄）で、加えて兵庫県南部地震で亡くなった人々の冥福を祈り、被災者の一日も早い再起を願って地震安全、産業復興が祈願された。

世界平和の礎となる「世界宗教の樹立」を目指し、宗教の融和、融合を理念として掲げてきた阿含宗では、これまで国内において神仏摺合による宗教の融和を推進。平成五年十月には伊勢神宮の第六十一回式年遷宮を奉祝する「神仏両界大柴燈護摩供」を三重県伊勢市内で奉修した。

これを機に昨年から、大導師・桐山管長による「神仏両界の秘法」で星まつりが奉修されている。

星まつり当日の京都地方は、前日のくもり空から一変してすばらしい青空に恵まれた。

修法会場の祭壇には、大柴燈護摩供の本尊として神仏両界が祭られており、仏界は真正仏舎利尊、神界は素戔速男命御神霊が主神として奉安された。

会場に構築された二基の護摩壇は、それぞれ直径十一メートル、高さ七メートルという巨大なもの。長さ四メートル、直径四十センチの壇木を一基あたり八十本使用し、正八角形に組み上げられており、祭壇に向かって左が神界壇（金剛界願望成就壇）、右が仏界壇（胎藏界冥徳供養壇）となっている。

午前七時、花火を合図に山伏行列が出発。一度に一万五千人が参拝できるという栈敷席をうめた参拝者の見守るなか、桐山管長を中心とする行列が次々と結界内へ入壇、着座した。

はじめに中山神社（山口県下関市）の三ヶ本充輝宮司を斎主として御神事が行なわれ、三ヶ本宮司、丸茂雄治権禰宜ら神職と桐山管長、堤たち副管長らが祭壇前で向かい合って整列。祝詞奏上等の後、三ヶ本宮司、桐山管長により玉串拝礼が行なわれた。

御神事終了後、朝日が会場を照らすなか威勢よく山伏問答が行なわれ、護身法、斧・法弓・宝剣の各作法が粛々と進行。桐山管長が願文を奏上し終わると同時に四本の松明に火がともされ、花火の打ち上げと共に松明によって二基の護摩壇に点火された。

結界内の山伏修行者が一斉に護摩壇に走りよって、壇の表面を覆う檜葉に付けられた小御幣をはずす。もうもうたる煙が天を衝くようにしばらく上昇を続けた後、やがてゆっくりと紅蓮の炎が壇上に姿を現わした。

この後、護摩壇には全国の信徒や参拝者から寄せられた護摩木が修行者によって次々と投入され、すでに両壇に納められていた千八百万本を含め、この日だけで約三千七十万本の護摩木が焚き上げられた。

神仏二基の護摩壇は各々直径11メートル高さ7メートルの巨大なもの【写真は省略】

東京で震度6の地震が

桐山管長警戒を呼び掛け

正午からは会場内のプレスセンターで桐山管長の記者会見が行なわれた。

この中で桐山管長は、大震災後の一般行事の自粛ムードのなかで今回の星まつりを挙行することについて、「災害で多くの人の心が萎縮している。神仏の御加護をいただいて、勇気を奮い起こして復興しなければならない。星まつりには毎年、たくさんの参拝者があり、例年どおり行なうことで人々は勇気づけられる」と述べ、護摩木勧進の冥加料の一部が被災地に義援金として寄付されることを明らかにした。

阿含宗では北伝・南伝・チベットの三仏教の統合による「完全仏教」の完成を踏まえた「世界仏教」樹立の第一歩として、昨年から「環太平洋圏仏教」を提唱。台湾・台北市における桐山管長の講演会（昨年四月）やアメリカ・サンフランシスコ市における「キリヤマ環太平洋財団」の設立（同九月）など、環太平洋諸国の友好と繁栄を促進する活動を展開しているが、桐山管長は「環太平洋圏が力を合わせて世界平和を実現しなければならない。我々の運動は着実に実りつつあり、今後も努力を傾注していきたい」と更なる活動への意欲を表明した。

また今回の地震について何か予感は無かったかとの問いに対しては、「元旦の新年の法話で、“今年は破壊と創造の年。とくに破壊の力が働く年で地震がある”と発表した。今年はさらに東京で震度6の地震が予想される」と警戒を呼びかけた。

なお会見で桐山管長は、一九九八年の二十五回目の星まつりは一時、中断していた前夜祭を復活して盛大に挙行したいとの考えを明らかにした。

会場には大日修験太鼓の力強い音色が、護摩檀からあがる炎の躍動に合わせて終日、響きわたったほか、今年は会場に特設された神楽殿で、阿含宗職員と信徒により万物の繁栄を祈る彌栄神授の雅楽奉納が行なわれた。

また総本殿前広場では今年も中国・北京にある中国道教の総本山「白雲観」の秘仏「六十星宿守護神将」が奉安、展示されるなど、会場は終日、活気に溢れていた。

受験者数は倍々増に

6年度の合計は43万人

漢字能力検定試験

七年度の試験日程を発表

(財)日本漢字能力検定協会（大久保昇理事長、京都市西京区川島有栖川町五一）では、平成六年度第三回の漢字能力検定試験を十二日、全国の各会場で実施した。合計十一万三千四百三十三人の応募者のうち、兵庫県南部地震で中止となった神戸市内の三会場での受験応募者などを除き十一万人余りが受験した。

ワープロの普及に伴って漢字の実社会における必要性が高まり、二十年前から同協会が行なっている、いわゆる“漢検”は、四年前から文部省認定の検定試験として大学の単位に認められたり、就職試験の一部としても採用されるなど一般的に認知され、受験者の数も、うなぎのぼりに増加している。

“漢検”の受験者の数は平成二年度が合計で七万八千二百四人、同三年度が九万四千五百十一人、同四年度が十二万一千九百二十四人、同五年度が二十四万六十一人、同六年度が今回の第三回も含めて四十三万八百二十七人となっている。

今回の大地震によって、被害の大きかった神戸市三宮の神戸新聞会館、同元町の兵庫県私学会館、兵庫県教育会館の三会場における試験は中止され、このため千人以上が受験を断念した。

なお平成七年度の日程がこのほど次のように発表された。以下の日程は会場・受験級、試験日、受付締め切り日の順。

〔第一回検定〕

▽公開会場（一級から七級）・平成七年六月四日（日）・同五月六日（土）

▽準会場（二級から七級）・平成七年六月四日（日）・同五月十日（水）

▽準会場（二級から七級）・平成七年六月三日（土）・同五月十日（水）

▽準会場（二級から七級）・平成七年六月十七日（土）・同五月十七日（水）

〔第二回検定〕

▽公開会場（一級から七級）平成七年十月十五日（日）・同九月十六日（土）

▽準会場（二級から七級）平成七年十月二十一日（土）・同九月二十一日（木）

▽準会場（二級から七級）・平成七年十月二十八日（土）・同九月二十八日（木）

〔第三回検定〕

▽公開会場（一級から七級）平成八年二月四日（日）・平成七年十二月二十八日（木）

▽準会場（二級から七級）平成八年一月二十七日（土）・平成七年十二月二十八日（木）

▽準会場（二級から七級）平成八年二月三日（土）・平成七年十二月二十八日（木）

受付締め切り日は厳守で、締め切り日以後に到着したものは受け付けできない。

申し込みは次の所へ。

〒615 京都市西京区川島有栖川町五一

(財)日本漢字能力検定協会

電話〇七五（三九一）七一一〇

ロータリー創立九十周年

25日に地域フェス開催

社会意識向上で企画

京都西南R C

一九九五年二月二十三日のロータリー創立九十周年を祝賀するために、ビル・ハントレー会長は、世界中の各ロータリークラブに「世界の窓週間」という地域社会意識向上プロジェクトへの参加を奨励している。

京都西南ロータリークラブ（会長＝大久保昇日本漢字能力検定協会理事長、会員百九人）では、この呼びかけに賛同して、二十五日、京都市西文化会館ウエスティを会場に、「西京区・住みよい地域社会を考える」をテーマとする“サウスウエスト・フェスティバル”を開催する。

このプロジェクトには、西京区役所をはじめ、西京区社会福祉協議会、西京区自治連合会、西京区体育振興会連合会、西京区地域女性連合会、桂少年補導委員会、京都西南ローターアクトクラブなど、近年目ざましい発展を遂げている京都市西京区の各公共団体が後援している。また、大久保会長が理事長を務め、地元本部を持つ(財)日本漢字能力検定協会が協賛している。

今回のイベントの内容は、パネルディスカッションが「西京区・住みよい地域社会を考える」をテーマに行なわれる。コーディネーターを同ロータリークラブ会長の大久保昇氏が務め、パネリストは京都市西京区長の荒田又之助氏、同西京区自治連合会の豊田英嗣氏、西京区地域女性連合会会長の安田桂子氏、西京区体育振興会連合会会長の中村安良氏、桂少年補導委員会会長の山口増夫氏が務める。

アトラクションは関西盲導犬協会による盲導犬の実演、西京消防署による救急救命士の実演、保育園児のお遊戯、幼稚園児の和太鼓、パール・エコーによるコーラスなどがそれぞれ行なわれる。

パネル展示では、京都西南ロータリークラブの「今日までの歩み」の紹介、各種地域団体の活動紹介が行なわれる。

ミニウオークラリーは、パネル展示を順番に見て回り、西京区に関する簡単な問題に答えていくラリー。日本漢字能力検定協会の企画で、漢字の能力を試しながら、家族一緒に参加できる。参加賞は全員に、正解者には抽選でプレゼントを贈呈する。

また、模擬店では、巻きずし・うどん・ぜんざい・コーヒー・ジュースを販売する。

バザーは、有志が持ち寄った品物を、格安で販売する。

京都西南ロータリークラブの大久保会長は一九九四年度、九五年度の会長として、「地域の発展を願い、安全で快適な生活環境を作り、すべての人々が幸福に暮らせるようにと、世界的な規模で奉仕すること」を目的とするロータリークラブの活動を行なっている。週刊で発行する同会の会報では、大久保会長自らがインタビュアーとなって地域の諸団体の指導者を訪ね、地域社会が抱える問題点や発展策を引き出し、地域社会のあり方を啓蒙している。

毎月、講師を招いて勉強会が開かれるが、二月八日の月例会では森清範京都・清水寺貫主を講師に招き、「共に生きる」と題する講演を聞いた。

森貫主は、阪神大震災（兵庫県南部地震）に負けずに頑張っている被災者やボランティアの人たちがお互いに助け合い、励ましあって生きている姿に感動し、これが人間本来の姿であり、「いま、共に生きている」という実感を持つことができた。今、一番大事なことは相手を認め、許すという深い愛をもって、共に生きることを認め合うことだと、仏教をもとに講演を行なった。三月の月例会では中国銀行の東京支店長を招いて講演を聞く。

(財)日本漢字能力検定協会の役職員もロータリー活動に参加しており、地域社会の中における世界的規模での奉仕活動、地域の発展に大きな役割を果たすことの重要性を実践活動の中で学んでいる。

今回の大震災に当たっては救援募金（約五百万円）や救援物資を持っての見舞い活動などを行なっている。